



みんなであつていくる支援の輪

発達について同じ悩みを抱える家族を支援したい。そんな想いから新たな取組みを始めた皆さんをご紹介します。

インタビュー 家族同士が繋がる場所に

私の子どもは、1歳半健診で言葉の遅れを指摘され、3歳半の時、医師から自閉症スペクトラム（※3）発達障がいの一つと診断されました。

一般的な子育てサークルに参加している、自分の子どもと周りの子どもの成長を比べてしまったり、他の保護者と悩みを共有できなかったりして、落ち込むこともありました。

町の保健師から紹介された療育グループでは、同じ悩みを抱える家族との交流により気持ちを楽しめることができましたが、残念ながら閉会してしまいました。

その時、この家族同士の繋がりをなくしてはいけないと思い、有志と共に「ひまわりカフェ」を立ち上げました。

ひまわりカフェは、発達障がいなどの診断名のあるなしに関わらず、発達に凸凹のある子どもを持つ家族を中心に、

地域や年齢を超えて繋がることのできる場所です。

発達に凸凹のある子どもを持つ家族の多くは、「これから先のこと」について、漠然とした不安感を抱え、ライフステージごとに子どもの進路を考えていく必要があります。ひまわりカフェに参加したお父さんは、普通学級や特別支援級、養護学校など様々な道に進んでいます。集ったみんなの悩みを共有し、情報交換し合うことで、不安な気持ちが和らぎ、未来の選択肢が広がることに繋がれば嬉しいです。

保護者の心が明るくなれば、余裕を持って子どもたちに向き合うことができ、子どもたちの健やかな成長にも繋がると思います。ひまわりカフェは、赤ちゃんや小さなお子さん連れでも参加できます。ほっと息つきに来てくださいね。



ひまわりCAFE代表
いしとび みわ
石飛 美和さん（上延沢）

ひまわりCAFE
活動日：毎月第2火曜日10～14時
場所：地域支援センターひまわり2階
問合せメールアドレス himawari.ob2016@gmail.com

※ひまわりCAFEは、平成30年度 子ども・子育て支援活動助成事業の採択事業です。



▲ひまわりCAFEプログラム

インタビュー 「あつたらいいな」が「あつてよかった」に

私の子どもは、町の3歳児健診の時に発達の遅れが発覚しました。その後、医師から重度の発達障がいと診断され、支援施設に通い始めました。

これまでお世話になった施設では、集団生活を通して、友だちや先生たちと一緒に様々なことを学び、私も子どもも成長することができました。この経験の中で、次第に私自身も子どもと保護者を支える場所を作りたいと思うようになり、今年5月に「※4放課後等デイサービスつぼみ」を立ち上げました。

また、つぼみは、地域社会との繋がりを大切に行っています。町内の公園に出かけたり、町のイベントなどにも積極的に参加したりして、地域の方々と繋がりを育てる機会を作っています。

現在、開成町には放課後等デイサービスが少しずつ増えています。それぞれの施設にはそれぞれの色があり、色々な場所で色々な人に見てもらえることを通して、子どもの様々な能力や特性が生かされ、可能性が広がると思います。

そのため、今後は、他の放課後等デイサービスとも連携しながら広げられたらと思います。

つぼみは、これからも皆さんの「あつたらいいな」を取り入れ、皆さんと共に成長していきたいと思っています。

つぼみの理念は、「あなたの『あつたらいいな』が、『あつてよかった』に」です。当たり前ですが、一人ひとり能力や性質は様々です。その子の特性や発達の状況に合わせて、その子にとっての「あつたらいいな」を日々の※5療育に取り入れて、成功体験を積み重ね自信をつけられるようにしています。



(株) 雷
放課後等デイサービスつぼみ 管理者
あかし きみか
明石 功香さん（宮台）

放課後等デイサービス つぼみ
住所：開成町みなみ5丁目6-8
☎83-3272



◀つぼみプログラム

参加者の声

放課後等デイサービス つぼみ

一人ひとりに合った療育のため、無理なく通えています。また、つぼみのスタッフさんが「子どもができたこと」をたくさん見つけ伝えてくれるので、親として、子どもの新たな一面が見られ、とても嬉しく思います。

40代女性

ひまわりCAFE

悩みを共感しあえる仲間が欲しいと思い参加しました。ひまわりCAFEでは、色々なことを相談できるので、日常生活の中で、ほっと一息つける場所になっています。今、悩んでいる方がいたら、ぜひ参加してほしいです。

30代女性

ことば

- ※3「発達障がい」
生まれつきの脳機能の障がいで、「自閉症」「アスペルガー症候群」「広汎性発達障害」「注意欠如多動性障害」「学習障害」その他これに類するものがあります。その状態は一人ひとり違います。発達そのものの障がいではなく、能力の偏りといわれています。
- ※4「放課後等デイサービス」
学校などの終了後または休校日に、コミュニケーション、運動を始め生活能力向上のために必要な訓練、社会との交流促進等を支援する施設です。
- ※5「療育」
障がいをもつ児童が、日常生活や社会生活を円滑に営むために、それぞれの障がいの特性に応じて行う援助のことです。